

第 154 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2007 年 10 月 5 日(金) 17 時 00 分~18 時 30 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 内藤 徹 氏

(福岡歯科大学歯学部総合歯科学講座総合歯科学分野・講師)

タイトル: 歯周病と全身疾患の関わり

口腔は消化器系の入口として食物摂取に重要な役割を果たしており、歯の喪失は咀嚼機能の低下とともに、栄養摂取状況の悪化などを通して、全身の健康に影響を及ぼすものと考えられる。また、糖尿病が歯周病や歯の喪失の危険因子であることは従来より知られているが、最近では糖尿病とともにいわゆる生活習慣病の中核をなす高血圧症と歯周病との関連も指摘されるようになった。さらに口腔は常在細菌感染巣の一つであり、歯周病などの細菌感染が虚血性心疾患のリスクとなることさえ示唆されている。また、歯周病は内因性の癌プロモーターである TNF (tumor necrosis factor) - の産生を増大させることから、歯周病の有病者でがんのリスクが高い可能性も考えられる。

このように歯周病と全身の健康との関連が注目されているが、この分野の研究には小規模な横断的研究による検討が多く、大規模な疫学研究とくにコホート研究(縦断研究)が実施され、口腔と全身の健康の関連についての確たるデータを提示することが、歯科界から切望されていた。しかし地域住民を対象とした調査には、口腔の状態のデータ収集には歯科検診が必要であり、大規模研究には多大な労力と研究費を要し、非常に困難である。そこで我々は、自記式質問票によってもかなり正確な口腔衛生状態のデータが得られ、かつ追跡調査も比較的容易な歯科医師(歯科医師会会員)を対象に疫学研究 - 「歯科医師コホート研究」 - を開始しており、すでに 2 万人を超える歯科医師の健康情報を得るに到っている。口腔の健康と全身の健康の関連が明示できるまでには、まだ数年の追跡を要するものと思われるが、歯周病とうつの関連を示唆するデータが得られるなど、研究は着実に進展している。

今回は、歯科医師コホート研究の概要と、その背景となっている歯周病と全身疾患の関わりについて、これまでの研究を紹介したいと思う。

担当: 健康増進口腔科学講座 吉成伸夫